

**片柳すすむ**

かたやなぎ 進

**市政報告**  
No.1

発行  
日本共産党  
川崎市会議員  
団  
〒210-0004  
川崎区宮本町1番  
地 第2市庁舎7階  
TEL 200-3360  
FAX 245-4140  
その他の連絡

1面 ①簡易宿泊所の火災問題で市議会初質問  
②ワンルームマンションの乱開発への規制を求める  
③小土呂橋の段差解消

2面 ①自公民が市議会の役職を独占  
②川崎市議会常任委員会等が決まりました  
③教育現場の声を市議会に／④コラム

火災にかかる簡易宿泊所から民営賃貸住宅などに転居する際の支援を行なう補正予算についての質疑が行なわれました。私は日本共産党を代表して私が質疑を行ないました。ひとえに、皆さんに議会に送っていただいたおかげ、との思いを噛み締めながら質問に立ちました。

この質疑では、(1)簡易宿泊所に住む生活保護受給者で、希望する方にはアパートへの転居をすすめるよう求めてきたこと。

(2)転居の際の保証人の確保や生活支援を強めることなど、宮原春夫前市議を先頭に党市議団の取り組みを紹介。そのうえで、「金銭管理に自信がない」「アパート



自席から質問する  
片柳すすむ市議

片柳すすむ  
の初質問

簡易宿泊所火災事故  
問題で支援策の拡充  
を求めました

回市議会定例会が開催され(7月8日まで)ました。6月25日に日本共産党の佐野仁昭副団長が代表質問を行い、同日に片柳進が代表質疑を行いました。市議会での論戦をご報告いたします。

6月15日から2015年第3

生活の仕方がわからない」など、アパート暮らしに不安な簡易宿泊所居住者が多いことを指摘して、質問を行い、「生活支援員を手厚く配置して、質疑を行いました。市議会での論戦をご報告いたします。

「生活支援員を手厚く配置して、丁寧な支援を」求めました。この中で、来年度以降の事業の継続を「関係局と協議する」という答弁も引き出しができました。

質問に先立つ6月5日、党市議団として市長にこの問題で申し入れを行なった。先述の2点の他に、庄倒的に不足している市営住宅の整備など、市が住宅確保に公的責任を果たすよう提案しました。



声が上がっています。

日本共産党の代表質問で、ワンルームマンションの申請が2年で2倍半に急増していることを指摘して、規制を迫りました。

豊島区は、2人以上が住める住宅集合住宅税」を04年に制定して、ファミリー向け住戸を設置すること、総戸数50戸以上の場合は、廃棄物収集日を含め週5日かつ日中8時間以上、管理人を駐在させることを求めていました。

一方、川崎市の指導要綱は「30

年以上の場合は、管理人室を設けること」「管理人はごみ収集日に日中2時間以上駐在すること」というだけで、ほぼ制限なしです。こうした事実を代表質問で指摘して、長く住み続けられるまちづくりと住宅の質を確保する立場から、ワンルームマンションの規制を強めるべき、渋谷区や豊島区の取り組みのように川崎市も要綱を改正すべき」と求めました。

まちづくり局長は「届出が急増しているから、今後実態調査とともに、管理基準等について検証したい」と答弁しました。

▼代表質問より・ワンルームマンションの乱開発への規制を求めました

川崎区内で、ワンルームマンションの建設が相次いでおり、日進町・大島一丁目などでは住民から「日影が心配」「地域コミュニティから孤立するのではないか」などの

子どもの医療費を小学校卒業まで無料化する予算を「行革次第だ」とはねのけ、「特別秘書」や大型開発などのムダ使いは進める。こんな川崎市の税金の使い方を改めさせるよう、引き続き頑張ります。



工事前

小土呂橋交差点の段差が解消しました。

要求解決



工事後

何人の方から「横断歩道に段差ができるてベビーカーが引っかかってしまう」「お年寄りが危ない」というご意見が寄せられていました。

道路公園センターに要望を伝えて交渉したところ、段差を解消する工事が行なわれました。

小土呂橋交差点の横断歩道について、日本共産党市議団が実施した市民アンケートをはじめ、

川崎市議会の民主的慣例が崩されました。

議長・副議長、監査委員ほか  
自公民が議会の役職を独占—

6月議会で、市議会議長、副議長、監査委員、各広域連合の議員が選出されました。これまで、40年間続いてきた川崎市議会の民主的慣例が大会派によって壊されるという事態となりました。

市議会の役職から共産党が  
締め出される結果に

これまで、川崎市議会は少數意見を尊重する立場から、正・副議長は第1・第2会派から、監査委員は第3・第4会派から選出するという方法を採用し、40年間守り続けてきました。その民主的な慣行が一方的に破られ、議会内選挙で選出されることになったのです。地方議員が行政をチェックするためには少数会派の意見を反映させることが重要です。実際に宮原春夫前市議は監査委員として、「税金が国際コンテナ港のムダづかいに使われているのではないか」と監視する重要な役割を果たしていました。しかし今回、自民党は「自民党と同じ考え方の議員を」とくり返し、民主党は「自公民の枠組みを崩したくない」という態度に固執。その結果、すべての役職

## ▼日本共産党川崎市会議員団の構成

団長	市古映美	
副団長	石田和子	佐野仁昭

▼委員会の所属 (◎は委員長、○は副委員長)

総務委員会	市古映美	宗田裕之	片柳 進
市民委員会	○大庭裕子	佐野仁昭	
健康福祉委員会	石田和子	渡辺 学	
まちづくり委員会	斎藤 隆	石川建二	
環境委員会	○勝又光江	井口真美	

都市計画審議会委員	佐野仁昭
港湾審議会委員	石川建二

▼川崎市議会の常任委員会所属が決まりました

5月25日の臨時会で川崎市議会  
常任委員会等が決まり、共産党の  
議員は左表のようになりました。

委員会の中では、痛ましい「中1事件」についての検討委員会報告についても議論が行なわれています。事前に教職員のみなさんに聞き取りをしたのが印象的でしたのでご紹介します。

「川崎市の中学校の1年生の学級数と生徒数を見ると、1クラスの平均生徒数が35人を超える学校が、52校中実に29校（2014年5月1日現在）。Uさんの通つていたA中学校もこうした過大学級の学校だったとのことです。事件の背景には、様々な要因があるのでしょう。でも、私は、川崎市が中学校での少人数学級の独自導入に一貫して背を向けてきたことの責任を市教委に鋭く問いたい」のです。



初質問をする  
片柳すすむ議員

総務委員会委員として  
教育現場の声を市議会へ

「中学1年になつて不登校が4倍化する『中1ギャップ』の根本的解決には、



を「一人ひとりの学習状況を把握しやすく、個別の指導を効果的に行なえる」「意欲の高まり・理解の深まりも期待できる」としています。

こうした現場の声・実態を代弁して、「教員のみなさんの多忙化解消を正面にすえた取り組みを」という立場で、このときも発言しました。今後も現場の声を力に、全力で頑張ります。

片柳 進

月歩

6月25日の川崎市議会での日本共産党の代表質問では、戦争法案についても市長に問い合わせただしました。

戦争法案に  
私も全力

さうに指定公共機関である放送、通信、電力、交通機関も協力を義務付けられる」という大問題を指摘し、憲法遵守義務をもち、市民の生命・財産を守るべき市長として、政府に撤回を求めるべきだと求めました。

しかし、福田市長は「国会の審議の中で国民にわかりやすい議論がなされる必要がある」などと、まったく他人事のような答弁でした。

アメリカの侵略戦争であつたとしても地  
球の裏側までも自衛隊が派遣されかねないこと、自衛隊が行なうのが国際的には「武力行使」そのものであること、などの問題とともに、「地方自治体は港湾飛行場、道路などについての協力を義務付けられ、自衛隊他国の軍隊の利用が優先され

区内では、「もうあんな思い」「戦争だけは、高倍さんのやりを寄せられました」といふ声にこそこたえるべきではないでしょうか。私も戦争法案阻止に全力を尽します。

A cartoon illustration of a fish swimming in a circle, with a speech bubble above it containing Japanese text.

